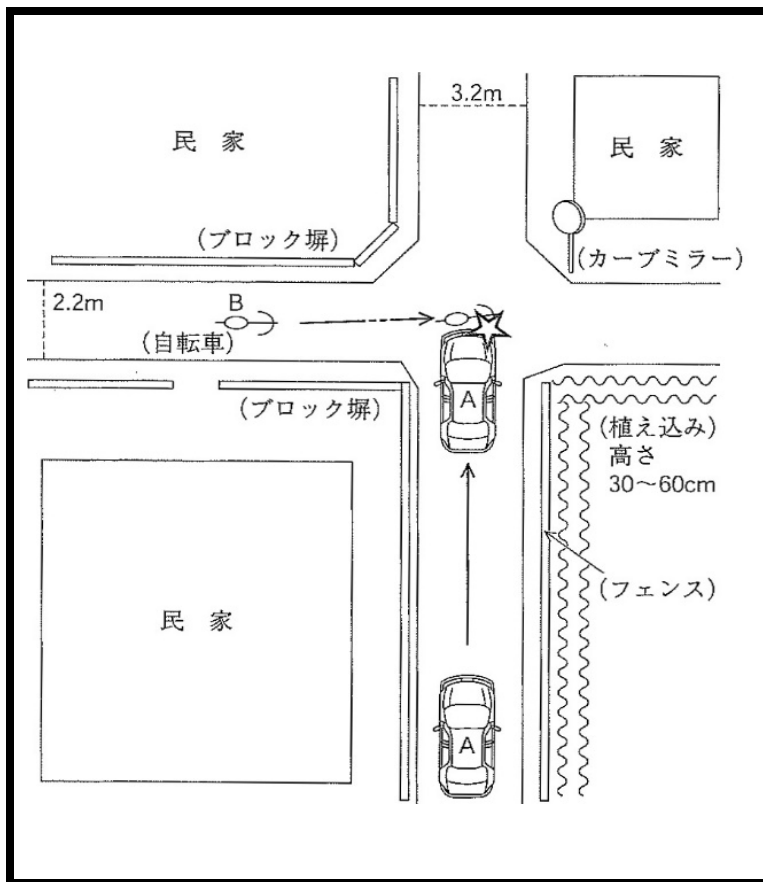


■事故の概況

自動車学校（全指連）参照



事故類型：出会い頭
発生日時：9月 午前8時頃
当事者A：軽乗用車
10歳代 女性
(運転経験2ヶ月)
当事者B：自転車 70歳代
男性

■ 事故の概要

Aは自宅から約200mほど離れた住宅街の狭い道路を時速約40kmで走行中、人家のブロック塀により左方道路の見通しの悪い交差点に差しかかりました。Aは、出勤時間に遅れそうであったことから、十分に減速して徐行することなく、かつ交差点に設置されたカーブミラーも確認しないなど安全確認を怠って進行したため、左方道路から交差点に進入してきたB自転車に気付かず、衝突直前に発見して急制動しましたが間に合わず、B車の右側面にA車前面が衝突しました。

■ 事故から学ぶ

今回の事例は、初心運転者であるAが、遅刻しそうなので焦りがあったことも確かですが、運転者として基本的なルールの一つである「徐行」の意味を理解していなかったことにも原因があります。

「見通しの悪い交差点の通過方法」は、徐行が大原則です。どのような走り方が徐行なのか、何のために徐行するのかという基本的なことが、十分理解されていなかったのです。免許取得後、いざ一人で道路交通の場に出ると、開放感から基本的なルールや運転方法を忘れてしまいがちで、それでも事故が起きなければ徐行や安全確認という行為がいい加減になってしまうのでしょうか。

※「徐行」とは、車両等が直ちに停止できるような速度をいいます。